

納得のいく安全活動

新城営林署 青山 忠好

《はじめに》

作業を行うのに安全を確保することは、しごく当然のことです。私は安全確保の対策に興味があり、それなりの活動をしてきたつもりです。しかし、昨年度末には当時団子島製品事業所でしたが、公努災害が3件も続発し、大きなショックを受けました。今後はこのような事故を二度と起きないように、初歩的段階まで戻って過去の安全活動を反省し出直してみようと考えました。

《過去の安全活動のおもな反省点》

- 1 昭和48～49年度の二カ年間無災害であったので一つはその惰性的安全活動になっていたのではないかな。
- 2 班間の意志疎通は図られているが、班相互にはあまり話合う機会がなかった。（事業地の分散化）
- 3 安全懇談会は、全体会議方式をとっていたため、発言者は片寄って多くの発言がなく全員参加していても参加意識が少なく、ただ話を聞くだけということになりがちである。
- 4 事務所から各人への連絡文書は月3～4回程度出していたが、効果有りと判断しているものの一方向的通達になっていた懸念がある。
- 5 安全推進員の職務内容は文字では、はっきりしているが、現場における具体的な行動がない。

《ではどうすればよいか》

反省した点をどのように解決していくかを考えました。いくつもの目標をたてても成功率は少ないので、安全活動の重要な場となっている安全懇談会ひとつにしぼり、その実施方法を変化させることによって目的達成を図ることにしました。

従来の懇談会は、全員による全体会議方式に頼っていたので、この方式によると次の点が指適されます。

- 1 主任主導型になり一方的な話合いになることが多い。
- 2 発言者が限られた形になり、発言数も少なく中味のうすいものになりがち。
- 3 班相互間の意見も出ず、班相互の調整は主任や指導員のみ頼られる。
- 4 安全推進員は何か発言しようとする意識はあるが埋没してしまっている。
- 5 聞き役が多くて活発化せず時すぎればの感がある。
- 6 全員参加しているが各人の参加意識が少ない。
- 7 決定事項に対して責任感が各人に乏しい。

《実施事項》

分科会方式による安全懇談会を併用実施することにより変化をもたせた刺激を与えた。分科会による懇談会の実施方法は、次のとおりです。

1. 参加者は、事務所及び各班から各2～3名程度各分科会に出る。
2. 座長には職員及び作業班長（安全推進員）を、記録者は各班作業員のなかから班長以外の安全推進員やその日の安全当番をあて、懇談会の始めに確認し討論に入る。
3. 議題は、初歩的段階から出直す意味から身近なことを取り上げ、各分科会が別個の場合と同一の場合とを設けた。
4. 分科会による討論決定は、あとの全体会議に座長から報告し全員が確認実施に移す。
5. 安全懇談会の実施状況は別表3のとおり。
6. 分科会による安全懇談会の実施内容は別表4のとおり。

《分科会による懇談会の実施結果》

（全員に対して）

1. 全員発言に成功し、意見が激増した。
2. 決定事項について、責任感が増加し、次の懇談会に反省が出るようになった。
3. 自主的安全活動決定の場となってきた。
4. みんなで参加し、みんなで決めるということが名実ともに実現した。
5. 班相互の交流が親密化し、細部事項の検討ができた。
6. 全体会議方式によるマンネリ化から脱し、変化を求めることにより、安全意識の刺激と高揚に役立った。

（指導員に対して）

1. 指導員として、安全推進員としても自覚が再認識され、現場での実行結果のチェックが増加した。
2. 次回の懇談会の議題提案もあり、積極性が増した。

（安全推進員に対して）

1. 主任主導から集団指導に変わり、とくに作業班長（安全推進員）の積極性がめだった。
2. 安全推進員の職務遂行意識が高まった。
3. 安全推進員に推進員ノートを備付けて、どんなことでも記録することによって後日に役立てるよう以前から実施しているが、その記事が増加した。

（全体会議に対して）

1. 発言が多くなり分科会方式のよい点が導入された。

以上のように総合して『全員参加で決定と実行』ということが当然なことであるが実現できたことは、今後の安全活動に役立つものと考えています。

昨年度、新城署の製品事業は10件という公務災害を数えましたが、今年度は現在残念ながら署間常用の方が函子島製品事業所で1件出しましたが、自署職員は無災害できております。安全懇談会の開催方法を変化させたことのみで、このようなよい結果が出ているとは考えていませんが、よい刺激になったと自分なりの評価をしております。

しかし、このように努力してきた途中にも「あれだけ言ったのに」又、「はっきりみんなの前で説明したのに」「忘れてたり、聞いていない」という現実がありました。これからの課題は『いかに一度で忘れないように印象づけて記憶させるか又するか』にかかってきました。安全懇談会に限らず話をするときは、ユーモアや時には口げんかにより刺激を与えることも大切で忘れないようにする工夫が必要であります。

このような反省を含め、全員参加の自主的安全活動の実施と事業所における安全管理体制の土台作りができましたが今後も、更に努力することをお約束して皆さんのご批判ご指導をお願いして、発表をおわります。

安全活動の主な反省材料

別表1

惰性的安全活動

S48.49無災害であった

安全活動マンネリ化

班相互の交流に欠けた

班内の意志疎通のK

事業地の分散化

事務所と各班の連絡がよい

安全懇談会の工夫を

発言者が片寄っている

発言数少ない

聞き役が多い

全体会議方式で多勢のためおたおた任せ

個人の責任感うすい

主任主導型だ

意見交換の場にしてほしい

指示や連絡は徹底していた

連絡文書は一方的通達

安全推進員の具体的な行動がほしい

安全推進員としてこれをやったという返答がほしい

精神的には苦痛を感じている

ほかほか他人を指摘できない

責任は感じている

〈従来の安全懇談会〉

決定事項に責任感うすい

中味がうすい 活発化したい

主任や指導員の一方的発言

発言者も限られる

内容多し

発言数も少す

目撃されず

参加意識も少す

他人は他人の感あ

班相互間の意見少す

主任や指導員が言詞整理役

安全推進員の発言も少す

安全懇談会実施状況

別表3

- < 昭. 51. 2. 21 > 分科会方式 → 全体会議
↳ 分科会による討論
- < 昭. 51. 3. 12 > 分科会方式 → 全体会議
↳ 分科会による討論
- < 昭. 51. 4. 5 > 全体会議
新年度に伴う懇談会
- < 昭. 51. 4. 28 > 全体会議
安全推進員研修伝達外
- < 昭. 51. 5. 25 > 全体会議
死亡災害事例を中心とした基本動作確認外
- < 昭. 51. 6. 9 > 分科会方式 → 全体会議
↳ 分科会による討論
- < 昭. 51. 7. 10 > 全体会議
他事業から戻ったの懇談会

なお 発表者は、現在裏谷製品事業所に勤務している
が、昭. 51. 8. 1 まで在任した、田子島製品事業所の
資料による報告とする。

田子島製品事業所の職員構成

定員内	主任 1名	補助員 6名
定員外	A班 7名	B班 7名 C班 7名
	林道班 4名	

安全推進員は、補助員 6名 各班長 4名と
製西班は他に各 1名づつ 計 9名

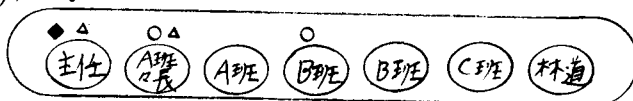
分科会方式による安全懇談会実施方法

別表4-1

〈25.2.21〉実施 議題は別個のもの
(2/分科会)

議題員 → 安全活動は現状でよかったか 今後の自主的安全活動はどうすべきか

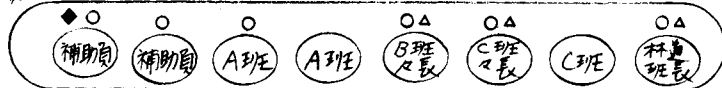
参加者



(2/分科会)

議題員 → 安全推進員は具体的に何をすべきか

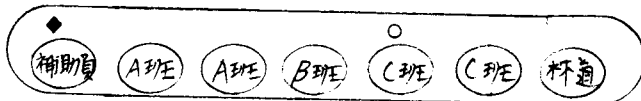
参加者



(2/分科会)

議題員 → 昭和51年度安全衛生活動実施要令の検討

参加者



- ◆ 班長
- 安全推進員
- △ 各班の書記録者

< 25. 6. 9 > 実施 議題同一のもの

— 製品班 —

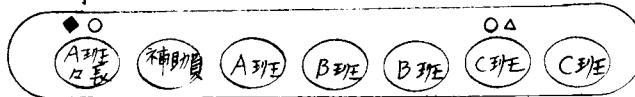
今回の分科会は、3月における安全懇談会で決定されたビデオコーダの活用をもとに各班の作業を撮影し、全員で見たと、同一議題をもって分科会にて討論したものである

(議題)

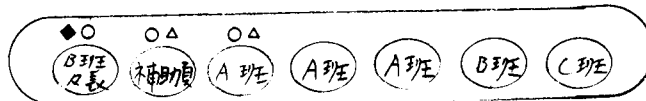
- ① 基本動作はどうか
- ② ビデオコーダを見て感じたこと
- ③ ビデオコーダの今後の活用

参加者 主役はフリー

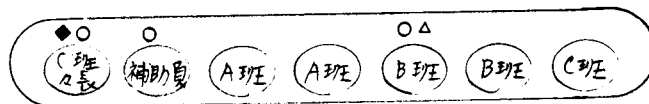
(1分科会)



(2分科会)



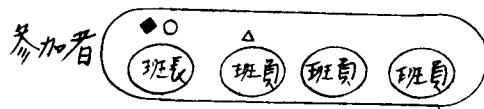
(3分科会)



—○林道班—

オ4分科会としビデオコーダ撮影は製品作業のみであったため独自の議題により実施した。

(議題) 今後の安全活動の進め方



<25.4.28> 全体会議

議題は安全推進員石可修の伝達が主であつたので座長には班長(安全推進員)をあげ、各班の書記録者は当日の安全当番をあげ主任は開会後に回し語を進めた。

他の安全懇談会はすべて主任中心で進めた。

分科会方式による総談会の実施結果

全員に対して

安全意識の刺激と高揚

全体会議方式のマンネ化から脱却

班相互の意見交換助長

前総談会の反省しやすい

各部署事項の話し合いができる

自己啓発

全体会議方式にも分科会方式のよい点を導入

全員参加で決定し実行

全員発言

意見激増

責任感増大

安全活動決める場

事業所の和づくり

気楽に話し合う場

指導員に対して

積極性を刺激

自覚の再認識と実行結果のフィードバック増加

次回総談会の議題自身提案

安全推進員に対して

主任主導から脱却

みんなでの指導話し合い

作業班長の積極性めだつ

推進員職務遂行意識増加

安全推進員への記事増加